

丹沢 水無川 セドノ沢・右俣

(報告) FJ

◎山行期日：2020年8月15日

◎メンバー：KM (L)、FJ

猛暑が続くお盆休みの最中、丹沢のセドノ沢右俣を遡行した。先々週、同じく丹沢の勘七ノ沢をKMさんと遡行しており、真夏の沢登り第2弾である。セドノ沢右股の核心は水無川流域最大の落差35mの大滝。また、遡行グレードは2級上（大滝完登の場合）で、これまで経験した1級の沢に比べると難しいようだ。

●予定ルート 大倉→（徒歩）→戸沢キャンプ場→水無川→セドノ沢右俣→書策小屋跡→
（政次郎尾根→戸沢キャンプ場→（徒歩）→大倉

大倉からの林道歩きで汗だくになりながらやっと戸沢キャンプ場に到着。川に涼みに来ているレジャー一客を横目に装備の準備に取り掛かる。太陽がキラキラ、今日は暑くなりそうだ。ではなく既に暑い(汗)。

キャンプ場を出発し、入渓しても沢の清涼感をあまり感じられない。とにかく蒸し暑い。1本立てた後、更に上流に行くと沢の水量が増えて幾分涼しくなってきた。滝はまだかなと思っていたところ、本谷のF1に到着。ここはロープを使わずに、水流の左側を備え付けの鎖で登る。

本谷F1の先に分岐があり、我々は右側のセドノ沢を進む。セドノ沢F1、F2と続き、ここから先はロープを使って登った。この後、更にセドノ沢が



(セドノ沢F1)

右俣と左俣に分かれる分岐があり、右俣を進むと右俣F1～F4までとなる。ちょっとややこしい。

右俣F1はKMさんにリードして頂いた。前衛滝は問題ないが、その後の8m滝は他の方の山行記録で、滑りやすいとあったため、左壁のホールドを手に取りながら慎重に登った。右俣に入って難易度が上がってきた感じがする。

右俣F2は筆者がリードする。水流の右壁をトラバース気味に登る要領だ。KMさんより「スタンスをもっと下」とアドバイスをもらう。壁に必死に張り付きながら何とかクリア。ここが、今日一番難しかったと感じる。この後、急なゴーロ沢がしばらく続きF3に到着、筆者がリードで登る。残置ハーケンは見当たらない。岩にスリングを巻き支点を1箇所作ってクリア。

さて、核心のF4大滝の登場である。上を見上げるとゲームで云うラスボス感を漂わせる。思ったより水流が少ないのは、猛暑の晴天が続いたせいかな。果して、今山行の目的とする上段を登り完登することができるだろうか。ここまで、暑さのため消耗が激しい。F4に取付く前に、せっかくなので大滝を前に写真を撮って頂いた（次ページ）。

KMさんがリードで、水流左側の乾いたフェース（凹角）から登る。途中のテラスからフェースへの登り始めが難しい様だ。上の立木まで登った後、KMさんからコールが掛かって筆者がフォローで登る。

KMさんの登りを下から見ていたのもあり、割とスムーズに登れたが、リードで登るとなると難しいと思う。

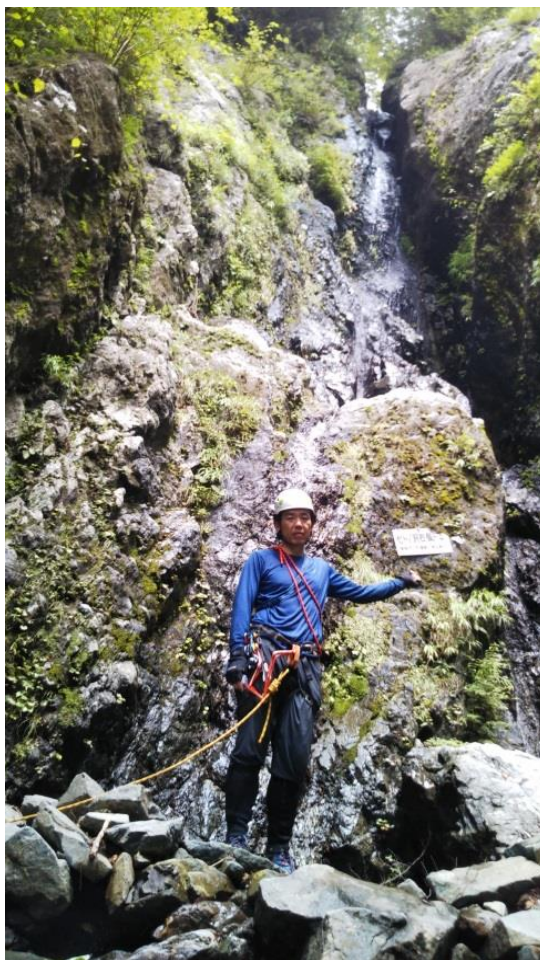
立木に着き、滝の上段を完登するか、岩場を巻くか、残り時間と消耗度を考慮した結果、岩場を巻いて詰めることとした。ここから沢を詰めて稜線に上がり、尾根を下って大倉までの徒歩を考えると止むを得ない。最上段の滝まで水平トラバースする箇所は怖そうだし今度にしておこう！

大滝最上段を巻き、踏み跡を辿りながら稜線まで詰める。毎度のことながら、急斜面が続き体に堪える。稜線に近づくと、日陰がなくなり暑い！炎天下の藪漕ぎだ。秦野の街が霞んで見える。

やっと表尾根の書策小屋跡地に到着。少し下った登山道の日陰で休憩。フーッ、頭がジンジンする。休憩中に2名の単独行登山者に会って話をした。真夏に丹沢表尾根を歩く方は強者だと思った。

政次郎尾根を使って、戸沢キャンプ場まで下りる。作治小屋で休憩中しようとする、表尾根で会った登山者とバッタリ遭遇。我々が大倉まで徒歩なのを知ってか、車で大倉まで載せて頂けることとなり、非常にラッキーでした。有り難いです。

大滝最上段は、お預けとなりましたが、もう少し涼しい時期にトライできればと思います。戸沢キャンプ場までは、車だと尚いいなど。同行して頂いたKMさん、ありがとうございました。



(F4 大滝)

<<参考コースタイム>>

渋沢駅バス発	8:08
大倉発	8:25
戸沢キャンプ場	9:37
戸沢キャンプ場発	10:10
休憩(水無川F1手前)	10:35
セドノ沢分岐	10:55
休憩(セドノ沢F2後)	11:56
F4大滝終了点	13:45
書策小屋跡	14:55
政次郎尾根分岐	15:27
戸沢キャンプ場着	16:30
作治小屋発	17:20
大倉バス発	17:47